

補説①

○43句目「皚」について

『大漢和辞典』の語義欄には、(四)「井戸がわをたたみ築く」とあり、次のような用例がある。

『易経』「井」に「文四、井_レ皚無咎。(疏)子夏傳曰、皚、亦治也。以_レ壇壘井、修井之懷、謂之為皚。」

補説②

○46句目「斑藓石孤拳」の「藓」について、

この語は諸本によって異なる所である。刊本では「藓」になっているが、内閣文庫本や太宰府天満宮本の写本では「癬」の字になっており、又、岩波古典文学大系本の底本である尊経閣文庫本他の多くの写本では

「藓」になっている。韻はいずれも「仄韻」(●)だが意味が異なる。

○「藓(せん)」…隠花植物。こけ。

○「癬(せん)」…糸状菌の感染によっておこる非常にかゆい皮膚病。疥癬。

○「藓(はく)」…①セリ科の多年草。薬用植物の一つ。

○②藓荔(へいれい)…クワ科の常緑低木。つる性で壁や他の樹木につたう。

ここでは、前後の句意から考えて、刊本に採る「藓」の「斑藓石」として「まだらに苔のはえた石」と解釈してみた。

補説③

○47句目「物色」について